

# 児童生徒の「確かな学びをつなぐ」ポイント（研究2年次）

## 確かな学びをつなぐ

資質・能力が育成されることで、児童生徒が自分の成長を自覚し、自己肯定感を高め、さらに自己を成長させようと努める姿勢を身に付けること

家庭や関係機関との連携

資質・能力を地域生活や将来の生活で生かす児童生徒

小→中→高→卒業後の生活を意識した指導内容の重点化と教育計画

地域資源の活用や実習等の充実

資質・能力をさらに伸ばす児童生徒

単元と単元のつながりのある年間指導計画

担任団や学部、授業担当等が、児童生徒の実態や身に付けた資質・能力について共通理解を図った上での、チーム・ティーチング



身に付けた資質・能力を学校で生かす児童生徒

目標達成に向けた毎時の授業改善

児童生徒の興味・関心を取り入れた、達成感と次への意欲をもてる授業作り

学校行事や学部行事と関連させた単元作りと教科横断的な指導

じっくり取り組める単元計画と繰り返しの経験

適切な実態把握と、一人ひとりに応じた目標設定

実態と指導内容に応じた指導形態の選択とグループ編成

確実に資質・能力を身に付ける児童生徒



〔図-75 研究2年次：教師が教育計画を行うにあたって押さえておくべき児童生徒の「確かな学びをつなぐ」ポイント〕